

令和4年4月13日

春先の高温に対する技術対策について

農業総合センター
専門技術指導員室

I 共通事項

- ・高温が続くことにより、農作物の生育ステージの急激な前進が想定される場合は、農作業計画の適切な見直しや農業資材等の確保に留意する。また、県病虫害防除所の病虫害発生予察情報の収集に努める。
- ・熱中症対策として、高温下での長時間作業を避け、水分補給と休憩を取るように心がける。特に、高齢者は、暑さに気づくことが遅れやすく、無理をしやすい傾向があることから、熱中症が発生しやすい高温多湿の日や日中の時間帯に巡回を行うなど、効果的な注意喚起を行う。
- ・この時期は寒の戻りによる低温、晩霜害の発生も念頭におきつつ、以下の対策を講じられたい。

II 普通作

1 水稲

- ・気温が高いと、浸種日数が例年に比べて短くなるので浸種日数に注意する。また、芽出しは「ハト胸」（芽が1mm出た程度）にとどめる。
- ・水温が高いと細菌性病害が発生しやすくなるので、種子消毒完了後は、水の交換を1日1回行うようにする。
- ・ビニール等を新しく張り替えたハウスや被覆資材のかけ過ぎは、高温による「苗ヤケ」が発生しやすくなるので、温度管理に特に注意が必要である。
- ・低温から高温の急激な温度変化は「ムレ苗」の発生を助長するので温度管理に注意する。
- ・育苗期における高温・高日射条件では、もみ枯細菌苗等の病害、苗の徒長やヤケ苗が発生しやすくなるため、高温・多湿にならないようハウスの換気を行う。
- ・緑化・硬化期に高温（35℃以上）・多湿になると、リゾープス菌などによる苗立枯病が発生しやすくなるので、高温にならないように注意し、かん水する際は、水のかけ過ぎに注意する。

Ⅲ 野菜

1 干ばつ対策

- ・干ばつ傾向にある地域においては、土壌の保水力を高め、また、根を深く張らせるために、深耕、有機物の投入等に努める。さらに、マルチ等により土壌面からの蒸発防止に努める。
- ・ハダニ類、アブラムシ類等干ばつ時に発生が多くなる傾向の病害虫については、その発生動向に十分注意し、初期防除に努める。

2 高温対策

(1) 全般

- ・かん水は、立地条件や品目、生育状態等を十分考慮し、かん水時間帯にも注意し、高温時は早朝・夕方に実施する。
- ・施設内のかん水は、湿度が高くなりやすいため、夜間や曇雨天時は、通気性を良くし、循環扇を利用するなどして湿度を下げる。
- ・地温上昇の抑制や土壌水分の保持を図るため、適宜、地温抑制マルチや敷わら等を活用する。
- ・高温耐性品種の選定に当たっては、立地条件、品種特性、需給動向等を十分に考慮する。
- ・園芸用施設は、妻面・側面を開放するとともに、作物の光要求性に応じて、遮光資材等を使用し、施設内の温度上昇を抑制する。
- ・遮光資材は、果実の日焼けや葉やけの防止にも有効である。
- ・循環扇は、局所的な高湿空気の滞留を防ぎ、室内温度の均一化が図られるとともに、作業快適性の向上が期待でき、さらに、天窓の開閉や換気扇等を活用した換気、遮光資材、細霧冷房等と併用することが重要である。
- ・こまめな除草や側枝、弱小枝及び下葉を除去し、風通しを良くする。
- ・育苗箱は、コンテナやブロックでかさ上げし、風通しを良くする。

(2) 葉茎菜類

- ・乾燥によるチップバーンを防止するため、薬剤防除時にカルシウム剤を混用する。
- ・ねぎでは、軟腐病が発生するおそれがあることから畝間かん水を控える。

(3) 果菜類

- ・不良果の摘果、若どりを行い、着果負担の軽減を図るとともに、適切なかん水・施肥により樹勢維持に努める。
- ・老化葉、黄色葉を中心に摘葉を実施し、水分の過剰な蒸発抑制や呼吸抑制に努める。
- ・カルシウム欠乏、鉄欠乏、ホウ素欠乏等の生理障害対策として、必要に応じて葉面散布を行う。

IV 果樹

1 干ばつ対策

- ・干ばつ傾向にある地域においては、用水の確保に努め、敷わら、敷草等により、土壌水分の蒸発を極力抑制しつつ、適宜かんがいを実施する。
- ・草生園においては、干ばつ期の草刈りを実施し、防水透湿性シートによるマルチ栽培を行っている園地においては、マルチを巻き上げてかん水を行う、かん水チューブによりドリップかんがいを行う等により、地表面への直接かん水に努める。
- ・かん水に当たっては、かん水設備の漏水、目詰まり等に留意し、適切にかん水が行われるよう事前に点検を行う。
- ・干ばつ時に発生し易いハダニ類については、発生動向に十分注意し、発生初期からの薬剤防除を実施する。

V 花き

1 干ばつ対策

- ・干ばつ傾向にある地域の露地栽培の花きについては、土壌の保水力を高め、また、根を深く張らせるために、深耕、有機物の投入等に努める。さらに、マルチ等により土壌面からの蒸発防止に努める。
- ・ハダニ類、アブラムシ類等干ばつ時に発生が多くなる傾向の病害虫については、その発生動向に十分注意し、適期初期防除に努める。

2 高温対策

- ・切り花については、朝・夕の気温の低い時間に採花し、常温で長時間放置しない。
- ・エチレンによる劣化を防ぐため前処理剤を使用し、品質の維持に努める。
- ・施設栽培の花きについては、施設内の温度上昇を抑制するため、妻面・側面を開放するとともに、作物の光要求性に応じて、遮光資材等を使用する。細霧冷房装置、換気装置等を設置している施設では、当該装置を有効に利用して適切な温度及び湿度の管理に努める。